

公衆衛生看護実習における実習施設の保健師による オンライン補完実習からの学生の学び

俵 志江^{*1} 笠置 恵子^{*2} 沖西 紀代子^{*1}

*1 県立広島大学保健福祉学部保健福祉学科看護学コース

*2 県立広島大学名誉教授・前保健福祉学部教授

2021年8月31日受付

2021年12月16日受理

抄 録

本研究の目的は補完実習を受けた学生が実際の保健師に見聞することから学べたと考えること及び学内実習で理解したこととの相違点、共通点を明らかにすることである。それによって、実際に活動している保健師からしか学べないことは何かを検討することである。学生が学べたと考える内容は【地域保健活動】【保健師活動の実際】【保健師の能力や考え】の3つに分類された。学内実習との相違点は『具体的な活動』『実際の保健師の話』『保健所の役割』の3カテゴリであり、共通点は『保健活動の在り方』『組織連携』『対象者への対応』『地域保健活動』の4カテゴリであった。結果から、実際に活動している保健師から学んだことは、学内で学んできた知識が、実際の現場でも実施されているという事実を確認することであり、将来のキャリアを考える上でのロールモデルとしての側面であると考察する。

キーワード：公衆衛生看護実習, 保健師, オンライン実習, 学生の学び

1. 緒言

1.1 背景

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、令和2年度の大学における臨地実習は令和2年2月28日に出版された「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応についての事務連絡(文部科学省・厚生労働省)」¹⁾によって臨地実習に代わる様々な代替え実習の取り組みが実施されたことが報告されている²⁾³⁾。

A大学においては、新型コロナウイルス感染拡大防止策に伴い令和2年度前期授業は原則オンライン授業を行うことが決定された。また、令和2年4月20日付で広島県からの実習受入延期の通知もあったことから、4年次前期実習である公衆衛生看護実習はすべて学内でのオンライン対応となり、保健師課程履修生は現場の保健師活動を直に見ることなく実習を終えることとなった。その後、令和2年7月15日付けで県からの実習受入再開の通知があったことから、半日の保健所によるオンライン実習を実施し、実際の保健師の活動を聞く機会を得た。

これまで、実習によって学ぶことができると位置付けていた内容について、臨地での実習が制限されたことにより、「学内のオンラインによる実習で疑似体験できることは何か」を検討し、実習目標を達成するためにオンラインで可能な方法や利用できる資源を模索した。その過程で、臨地でしか学べないことは何かを精査する必要性も顕在化した。そこで、コロナ禍と言われる事態の中で経験したこれまでにない試みを、学生の記録物を用いて、「臨地の保健師から学んだこと」を整理し、今後の公衆衛生看護に関わる科目の教育内容の検討と体系の構築並びに実習施設との教育方針の共有に活用してきたいと考える。

保健師教育には、保健師助産師看護師学校養成所指

定規則により公衆衛生看護学実習の5単位の実施が定められているが、保健師教育に求められる公衆衛生看護学実習は実習地が限られることから受け入れに限度があり、実習施設側の体制が理由で実習受入れが困難となることもあると言われている⁴⁾。これまで保健師課程の実習については、家庭訪問など実習経験内容による学生の学び⁵⁾⁶⁾や、実習経験前後における「保健師教育における技術項目と卒業時の到達度」の比較から実習の課題を見出す研究⁷⁾⁸⁾が行われてきた。現在の長引く感染症の影響により臨地で実習することができなくなった状況の中で、臨地で行う実習と同様の学びが得られたかを検証し、今後の学内での保健師基礎教育の質向上に活用することは、実習での学びをより高めることにつながり実習施設の負担を軽減することにも貢献できると考えられる。

1.2 A大学における令和2年度公衆衛生看護実習Ⅰの時期と内容(表1)

A大学の公衆衛生看護実習Ⅰは3単位で市町村2単位、保健所1単位となっている。実習目的は、保健所及び市町での実習をとおして、地域で生活している人々や環境について理解し、住民の健康の保持増進を図るために保健師が行う公衆衛生看護活動の基本的な知識・技術・態度を修得する、とし、保健所の実習目標は、「1. 地域保健医療福祉体系における保健所の役割と機能及びその組織体系について理解できる。」「2. 施策化に必要な根拠とプロセスを理解できる。」「3. 健康危機管理(感染症・災害等)の体制と予防活動について理解できる。」「4. 公衆衛生看護の理念と役割について理解できる。」の4項目である。

令和2年度の実習は、Microsoft Teamsを活用して学内オンライン実習を行った。実習スケジュールは表1に示すように、ケーススタディや、テーマに沿った視聴覚教材などを用いて具体的な事例に基づいて個人

表1：公衆衛生看護実習Ⅰの時期と内容

時期	実習名	内容
6/29~7/10	学内実習 [市町]	
7/13~7/17	学内実習 [保健所]	1日目 オリエンテーション, 保健所の概要, 施策化についてのケーススタディ
		2日目 県・保健所の役割と市町村の役割 (グループワーク)
		3日目 災害保健活動の事例視聴 (グループワーク)
		4日目 地域包括ケアシステムについての事例視聴 (グループワーク)
		5日目 保健所機能と保健師の役割について (グループワーク), まとめ
8/19	補完実習 [保健所]	保健師による講義 1. 保健所の組織と役割 2. 新型コロナウイルス感染症に関わる対応 3. 災害時の公衆衛生活動 4. 保健所における保健師活動 5. その他(質問への回答)

検討とグループワークを行い、発表するという流れを中心に展開した。実習期間中に、広島県の保健福祉関係学生実習受入れの再開について通知を受けたことから、学内オンライン実習で単位取得とするが、それを補完する実習施設の保健師によるオンライン実習として保健所保健師の実際の活動を垣間見る機会となるよう、具体的な内容として2点を要望した。1点目は、現時点での新型コロナウイルス感染症に対する対応及び災害時の対応における保健所と保健師の活動の実際について、派遣された場合と派遣を受け入れた場合について、2点目は保健所と市町の保健師の共同で解決に結びついた事例について、であった。実習施設の保健師によるオンライン補完実習では、「保健所の組織と役割」、「新型コロナウイルス感染症に関わる対応」、「災害時の公衆衛生活動」、「保健所における保健師活動」の内容について講義を受け、受講後学生は学んだことについて課題レポートをまとめた。

2. 目的

実習施設の保健師によるオンライン補完実習（以下、補完実習）を受けた学生が実際の保健師に見聞することから学べたと考えること及び学内オンライン実習（以下、学内実習）で理解したこととの相違点、共通点を明らかにし、実際に活動している保健師からし学べないことは何かを明らかにすることである。

3. 研究対象及び研究方法

3.1 研究対象

令和2年8月19日に実施した補完実習を受けた学生20名に対して、研究の概要及び倫理的配慮の説明を文書で行い、研究協力への同意が得られた学生15名の課題レポートを研究対象とした。課題レポートのテーマは、「保健所の実習を受けて学んだこと」であった。

3.2 研究の方法

令和2年8月19日に実施した補完実習を受けた学生の課題レポートを分析対象とし、①学生が実際の保健師に見聞することから何を学べたと考えるのか、②学内実習で理解したこととの相違点・共通点について、データを内容分析の手法⁹⁾を参考に分析した。①については、保健師による補完実習の講義の内容として挙げられている「新型コロナウイルス感染症に関わる対応」、並びに「災害時の公衆衛生活動について」に対する学びの記述を除外し、実際の保健師の講義を受けたことによって学べたと考えている内容の記述を抽出した。②については、学内実習で学んだこととの比較や補完実習での学びを表現した記述を抽出した。抽出したデータは記述されている文脈単位から文脈を損

なわないようにコード化し、それぞれのコードの内容を類似性に従って分類し、カテゴリとした。

3.3 倫理的配慮

対象者には本研究の目的、方法、倫理的配慮事項についての説明を記載した研究説明書と同意書、同意撤回書を郵送し、同封した返信用封筒で同意書の返送を依頼した。同意を撤回する場合は、同意撤回書を送付することで可能になることを記載し連絡先を表示した。研究対象の課題レポートは匿名化、データの保管方法及び処分方法について示し、課題レポートの成績評価は済んでおり、同意の有無による成績評価上の利益及び不利益も生じないことを記載した。本研究は、県立広島大学研究倫理委員会の承認を得て実施している。（承認番号：第20MH032,承認日：令和3年2月3月25日）

4. 結果

4.1 学生が実際の保健師に見聞することから学べたと考えたこと（表2）

保健師から見聞したことから学べたと考えたことに関する内容について抽出したところ、15名全員の記述があった。データをカテゴリに分類した結果を表2に示す。分類したところ、その内容は【地域保健活動】、【保健師活動の実際】、【保健師の能力や考え】の3つに分けられた。以下、コードを「」、カテゴリを『』で示す。

4.1.1 地域保健活動

【地域保健活動】に関しては、地域ケアシステムの構築やソーシャルネットワークの構築など保健師一人が動くのではなく人や関係機関をつなぐという『地域の保健活動』、地域づくりのために保健所が大きな役割を担っているとする『保健所の役割』を学んだと考えていた。

4.1.2 保健師活動の実際

【保健師活動の実際】に関しては、「市町村の保健師との連携や他の専門職との連携を行い、地域の健康を多くの面から支えていること」、「専門機関だけでなく、インフォーマルな機関・人々と連携し、課題に取り組みされていること」のように『住民や他職種との連携』、「常に住民の視点から地域課題をとらえ、対応すること」、「住民との関わり・協働を大切にしていること」などの『住民との関わり』、「感染症発生時や災害時等の様々な場面における保健所保健師活動の実際」、「災害時の実際の経験から感じたことや課題となったこと」のような『健康危機管理の実際』、「全体を見渡すことは重要だが、個を見逃さないことの必要性」のような『個の関わり』、「母子、難病、健康づくり、感染症などの具体的な保健師の役割」、「PDCAサイクル

表2：学生が実際の保健師に見聞することから学べたと考えたこと

	カテゴリ	コード
地域保健活動	地域の保健活動	対象者、家族、地域、地域の関係機関すべてを巻き込み、自助・互助・共助・公助をうまく活用できるソーシャルネットワークを構築し、対象者が求める、本当に必要な支援を提供すること 地域包括ケアシステムを構築するうえで、保健師は人と人、人と資源をつなぐ役割を担う 対象者を理解し、必要な支援を見極める能力と、必要な支援に結びつけるための広い視野が重要 地域を知っておくことで、地域で活用できる資源が分かること 地域を知っておくことで地域の特性に合わせた行動ができること
	保健所の役割	保健所が地域住民の健康を守ることや地域住民が安心して暮らすことができる地域づくりのために大きな役割を担っていること
保健師活動の実際	住民や他職種との連携	連携を取り合っていることで、その事例をより多角的にみることができると 関係機関と連携し、民間の資源や住民の自助グループなど地域全体で取り組むことのできるように連携すること 保健師や様々な職種が連携し、協働していること 地域の関係機関、他職種との関わりが、情報共有や知識を深めるために非常に重要であること 市町村の保健師との連携や他の専門職との連携を行い、地域の健康を多くの面から支えていること 専門機関だけでなく、インフォーマルな機関・人々と連携し、課題に取り組んでいること
	住民との関わり	地域住民と同じ視線に立つこと 常に住民の視点から地域課題をとらえ、対応すること 個別への対応と同様に、地域づくりや住民主体で健康を守る行動を起こしてもらうために協力体制を整えることの重要性 住民との関わり・協働を大切にしていること
	健康危機管理の実際	緊急時対応の実際の保健師活動 感染症発生時や災害時等の様々な場面における保健所保健師活動の実際 災害時の実際の経験から感じたことや課題となったこと 保健師目線での新型コロナウイルス対応
	個の関わり	全体を見渡すことと、個を見逃さないことの必要性 一人ひとりの対象者に長期にわたって対応していること
	保健所保健師の活動	母子、難病、健康づくり、感染症などの具体的な保健師の役割 1つ1つの分野で専門的かつ充実した支援が行えること PDCAサイクルを繰り返すことで質の高い支援を継続的に提供すること 市町村との協働や喫煙対策や麻疹・風疹への対応などの活動の実際 精神保健分野の地域包括ケアにおいて、基本に戻るという支援方法
	保健所保健師と市町村保健師	地域の特徴・課題を把握し、求められる役割を考える基本の視点が共通していること 仕事内容が異なる場合は多いが、地域の人のことを一番に考えている部分は共通していること 保健所保健師は市町村保健師よりも専門的な分野を主としており、少し視点が異なること 主として行う仕事は違っても地域住民の健康を守る立場として細かに連携していること 保健所保健師と市町村保健師の関わりと連携 保健所保健師と市町村保健師が連携する場面 保健所保健師は専門的な分野のみならず、市町村保健師と一緒に活動を行う場面があること
保健師の能力や考え	保健所保健師に必要な能力	対象者や患者を「人」として見るのが重要 地域全体を見るための広い視野も必要でありさらに対象者を一人ひとり見るための細かい部分を見る力も必要 地域で生活する人を支えるための幅広い視野を持つこと 必要となる対応能力や広い視点をもって業務をする必要性 全体を捉えること、人だけではなくその人の周りの環境をみるという視点 企画力や行動力、判断力が必要など実際の現場で必要となること 適切な機関や職種につなげること 住民や民間の資源を動かしていくこと 機関や職種の役割を認識すること 新しいことを考えるだけでなく、今の地域の人が必要としているものを考えていくこと 常に地域の方の目線というものを大切にすること 住民主体で活動を展開していくことを大切にすること 幅広い知識をもち合わせているからこそ寄り添った対応ができること 熱意やおもいやりなどが大切であること 予防的な視点で活動を行っていくこと 連携機関との情報共有をすることの必要性 優先順位を判断する力の必要性
	保健師の考え	何を大切にしている、どのような社会を理想としているのかについての考え 保健師としての心構えや大切にすべきこと 保健所で実際に働く保健師の働きや考え 実際の状況や働いている保健師の考え方 やりがい 保健所保健師のやりがい

を繰り返すことで質の高い支援を継続的に提供すること」のような『保健所保健師の活動』について学んだと考えていた。また、「市町保健師と保健所保健師で地域の特徴・課題を把握し、求められる役割を考える基本の視点が共通していること」「市町村保健師と保健所保健師の関わりと連携」のような『保健所保健師と市町村保健師』の関係性や共通点を学んだと考えていた。

4.1.3 保健師の能力や考え

【保健師の能力や考え】に関しては、「地域全体を見るための広い視野も必要でありさらに対象者を一人ひとり見るための細かい部分を見る力も必要」、「企画力や行動力、判断力が必要など実際の現場で必要となること」のように『保健所保健師に必要な能力』、「保健師としての心構えや大切にすべきこと」、「保健所で実際に働く保健師の働きや考え」のように『保健師の考え』、「保健所保健師のやりがい」のように『やりがい』などについて学んだと考えていた。

4.2 学内実習で理解したこととの関連（相違点と共通点）（表3）

学内実習と補完実習とを比較した内容について10名の記述があった。分類した結果を表3に示す。以下、データを「」、統合したカテゴリを『』で示す。

相違点として、「活動の実際について学ぶことができ、具体的なイメージを持つことができた」「詳しい内容を学ぶことができた」のように『具体的な活動』、「保健所で実際に働く保健師の働きや考えを聞くことができた」「保健所保健師の役割について多くの学びを得ることができた」のような『実際の保健師の話』、「保健所は幅広く専門的な職務があり、保健活動が円滑に進むように指揮を執る必要があることを学んだ」のように『保健所の役割』が学べたと受け止めていた。

共通点としては、「オンライン実習の際にも考えた理想の社会について、保健師の方からの話を聞いた」のような『保健活動の在り方』、「組織内・組織同士の

つながりの重要性は理解していた」のように『組織連携』、「患者への情報提供や患者の情報提供のために十分なコミュニケーションが必要であること」という『対象者への対応』、「地域の保健活動において、保健師一人が動いてもできることは限られてしまうということ」を改めて学んだ」といった『地域保健活動』についての記述がみられた。

5. 考察

5.1 学内実習と補完実習で理解したこと

学内実習を終えた約1か月後に実施した補完実習であったが、学内実習と補完実習で理解したこととの共通点として挙がっていた内容からは、学内で学んだことをより深く理解したと学生が捉えたと考えられた。学内実習では、保健師活動をイメージできるように視聴覚教材を利用し、視聴にあたっては注目してみるポイントや意識するシーンなどを伝え、視聴後にはグループワークを実施していたが、そこで話し合った内容等を補完実習において、実際の保健師の話を書くことによって評価することができ、理解が深まったと考えられる。『組織連携』や『対象者への対応』、『地域保健活動』などについても、理解はできていたが、保健師の話を書いて改めて必要性や重要性を確認することになったと考えられる。

相違点として挙がっていた内容からは、実際の保健師の話によって、保健師の役割や働き、保健師の活動についてより詳細に、具体的な知識を得てイメージできるようになったと言える。学内実習では地域性や実際の現場で起こる事象への対応等の詳細は入れ込むことが難しいため、具体例を踏まえた説明や、経験上得ている知識などを聞くことが保健所保健師の理解を深める結果となったと考えられた。また、保健師以外の専門職の担当する公衆衛生活動との連携等を聞くことにより、保健所の役割についても、具体性を持って捉えることができたと考えられる。

表3：学内実習で理解したこととの関連（相違点と共通点）

カテゴリ	コード	
相違点	具体的な活動	活動の実際について学ぶことができ具体的なイメージを持つことができた 詳しい内容を学ぶことができた 保健所保健師の具体的な活動についてイメージすることができた
	実際の保健師の話	保健所で実際に働く保健師の働きや考えを聞くことができた 保健所保健師の役割、働きといったものが、より一層イメージしやすくなった 実際に働く保健師の方の話を聞くことでより理解を深めることができた 保健所保健師の役割について多くの学びを得ることができた
	保健所の役割	保健所の幅広く専門的な職務と、保健活動が円滑に進むように指揮を執る必要があることを学んだ 保健所が大きな役割を担っているということを深く学ぶことができた
共通点	保健活動の在り方	大学での授業で学んだことが、実際の保健師の方の活動を聞くことで理解が深まった オンライン実習の際にも考えた理想の社会について、保健師の方からの話を聞いた
	組織連携	組織内・組織同士のつながりの重要性は理解していた
	対象者への対応	患者への情報提供や患者の情報収集のためには十分なコミュニケーションをとって対応していくことが必要であることは今まででも学んできた
	地域保健活動	地域の保健活動において、保健師一人が動いても、できることは限られてしまうということを変更して学んだ

5.2 実際の保健師に見聞することから学べたと考えたこと

補完実習をとおして、実際に活動している保健師から、学生が学べたと考えたことは【地域保健活動】、【保健師活動の実際】、【保健師の能力や考え】の3つに分類された。【地域保健活動】では、保健師が人と人、人と資源をつなぐ役割を持ち、それらを巻き込んでシステムを作るという、保健師活動の本質である「見る」「つなぐ」「動かす」¹⁰⁾に通じる内容が記述されていた。小野ら¹¹⁾は、現場の看護職の講義の効果について、看護職が働く職場の特徴や現状及び看護職の実態の理解につながったことを示している。この補完実習でも同様に、現場の保健師から直接聞くことにより、学生は実際の活動でこれらが行われていることを確認したと考えられる。

【保健師活動の実際】についても、『個の関わり』『住民との関わり』で個別の関わりや住民の視点をもとに地域の健康課題を捉え、住民の協力体制をつくり、『住民や他職種との連携』によって関係機関や他職種と協働して地域の課題に取り組んでいることを理解できたと考えられる。【保健師の能力や考え】においても『保健所保健師に必要な能力』では地域全体を見る広い視野と対象者一人一人を見る細かい視野が必要であることが記述されており、「虫の目」「鳥の目」¹²⁾といった言葉で表現される保健師活動の視点が理解されたと考えられる。臨地実習は、学生が概論や演習で学んだ知識・技術・態度の統合を図り、実践へ適用する能力を育成することを目的としている。補完実習においては、学内で学んできたことが現場で活動する保健師からも実践されたこととして聞くということに意味があるのではないかと考える。また、保健師という職業に就いた個人への興味や関心として『保健師の考え』『やりがい』についての記述があったことは、学生が将来のキャリアを考える上で、ロールモデルを見ることができたという側面も考えられる。

5.3 今後の教育への活用

今後学内教育を強化することができる内容として、研究結果の学内実習と補完実習で理解したことに関する相違点から、現在よりも更に保健所の役割や保健所保健師活動についての知識を伝える必要があると考えられる。保健所実習の期間は1週間と短いため、実習準備科目や実習前オリエンテーションなどの機会に、保健所に関する知識の確認などを行っておくことで、より実習によって得られる具体的な活動への理解が進むと考えられる。今回の結果から、学生は保健師活動の実際を具体的に知ることや保健師がどのような人々なのかを知りたいというニーズを持つことが推察された。現在も保健師課程科目内で保健師による講義を実施しているが、授業以外に卒業して保健師となった先

輩との交流等を行うことで、保健師の能力や考えに近づける機会を持つことも必要であると考えられる。

6. 結論

補完実習によって、学生が実際の保健師に見聞することから学べたと考える内容は【地域保健活動】【保健師活動の実際】【保健師の能力や考え】の3つに分類された。学内実習で理解したことに関して相違点、共通点について分析した結果、相違点は『具体的な活動』『実際の保健師の話』『保健所の役割』の3カテゴリであり、共通点は『保健活動の在り方』『組織連携』『対象者への対応』『地域保健活動』の4カテゴリであった。実際活動している保健師から学んだことは、学内で学んできた知識が、現場でも実施されているという事実を確認することであり、将来のキャリアを考える上でのロールモデルとしての側面であると考察する。これらの結果を、今後の教育へ活用していきたいと考える。

7. 文献

- 1) 文部科学省高等教育局医学教育課事務連絡 令和2年6月1日, (オンライン), 入手先
<https://www.mext.go.jp/content/20200603-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf>, (参照 2021-8-25)
- 2) 新型コロナウイルス感染症下における看護系大学の臨地実習の在り方に関する有識者会議：新型コロナウイルス感染症下における看護系大学の臨地実習の在り方に関する有識者会議報告書, (オンライン), 入手先
<https://www.mext.go.jp/content/20210608-mxt_igaku-000015851_0.pdf> (参照 2021-8-25)
- 3) 日本看護系大学協議会 看護学教育質向上委員会：2020年度 COVID-19に伴う看護学実習への影響調査 A 調査・B 調査報告書, (オンライン), 入手先
<<https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/covid-19cyousaAB.pdf>> (参照 2021-8-25)
- 4) 第3回看護基礎教育検討会：保健師学校養成所における教育内容と方法に係る調査結果(村嶋構成員説明資料), (オンライン), 入手先
<<https://www.mhlw.go.jp/content/10801000/000352173.pdf>> (参照 2021-8-25)
- 5) 川南公代, 齋藤泰子ほか：保健師選択制導入後の家庭訪問体験における学びと卒業時の到達目標との関連の検討, 武蔵野大学看護学研究所紀要, 13:21-30, 2019
- 6) 相原綾子, 板垣昭代ほか：公衆衛生看護学実習の実習経験内容と目標到達度の分析, 獨協医科大学

- 看護学部紀要, 12, 29-38, 2018
- 7) 多田美由貴, 岡久玲子ほか:実習前後における「保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」に関する学生の自己評価, 四国公衆衛生学会雑誌, 62(1), 115-121, 2017
 - 8) 萩原智代, 南部泰士: A看護大学公衆衛生看護学実習における実習前後の調査から見た教育効果の検討ー「保健師教育に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」を用いた学生の自己評価からの考察ー, 日本農村医学会雑誌, 68(1), 31-44, 2019
 - 9) 上野栄一: 内容分析とは何かー内容分析の歴史と方法についてー, 福井大学医学部研究雑誌, 9(1), 1-18, 2008
 - 10) 地域における保健師の保健活動に関する検討会: 平成24年度地域保健総合推進事業 地域における保健師の保健活動に関する検討会報告書, (オンライン), 入手先
<http://www.jpha.or.jp/sub/pdf/menu04_2_h24_02.pdf> (参照 2021-8-25)
 - 11) 小野幸子, 古川直美ほか: 高齢者ケア施設の看護職を協力者に実践的取組みを紹介した授業の効果 授業終了後の学生レポート分析より, 日本看護学教育学会誌学術集会講演集, 18, 137, 2008
 - 12) 奥山則子: 標準保健師講座1 地域看護学概論, 東京, 医学書院, 24-25, 2008

Student learning from online complement practice by public health nurses at a practice facility in public health nursing practice

Shinobu TAWARA^{*1} Keiko KASAGI^{*2} Kiyoko OKINISHI^{*1}

*1 Nursing course, Department of Human Welfare, Faculty of Health and Welfare, Prefectural University of Hiroshima

*2 Prefectural University of Hiroshima, Professor Emeritus

Received August 31, 2021

Accepted December 16, 2021

Abstract

This study aimed to examine the thoughts of students receiving online health practice delivered by public health nurses at a practice facility. In addition, the differences and similarities between online on-campus practice and online complement practice were investigated to identify the information and techniques that could only be learned via in-person training sessions with public health nurses.

The results revealed three categories of content that the students anticipated learning: “community health activities,” “actual activities of public health nurses,” and “abilities and ideas of public health nurses.” The differences between online and online complement practice fell into three categories: “specific activities,” “stories of actual public health nurses,” and “roles of public health centers.” Similarities appeared in four categories: “basics of health activities,” “organizational cooperation,” “dealing with the target population,” and “community health activities.”

Interacting with working nurses allowed the students to see the real-life applications of their courses. Moreover, the students now consider nurses as role models for their future careers.

Key words: public health nursing practice, public health nurse, online practice, student learning